

Press Release

報道関係者各位

2019年8月2日

アイロボットジャパンがロボットで福島を応援！ 床拭きロボット「ブラーバ」60台を土湯温泉観光協会に寄贈 ～「ルンバ」を使ってプログラミングを学ぶ『STEMワークショッププログラム』も福島で初開催～

アイロボットジャパン合同会社(本社:東京都千代田区/代表執行役員社長 挽野元)は、東日本大震災による被災と福島第一原発事故による風評被害のため、客足が落ち込むなど被害を受けた福島市の土湯温泉の復興支援の一環として、土湯温泉観光協会に床拭きロボット「ブラーバ」を約60台寄贈しました。



寄贈式の様子

アイロボット社は、東日本大震災時に福島第一原子力発電所に調査のために使用されたロボットの「パックボット」を開発するなど福島とは縁があり、昨年は、帰還困難エリアとなっていた福島県双葉郡8町村の小・中学校の再開校において校内清掃を支援するため、ロボット掃除機「ルンバ」約200台を寄贈いたしました。この度、福島市の山あいにある土湯温泉が、被災と風評被害で働き手となる若いスタッフが地元を離れ、高齢化により床掃除が困難になっている現状を知り、町興しの一助になればと考え、約60台の床拭きロボット「ブラーバ」を提供することいたしました。

8月2日(金)に行われた寄贈式では、土湯温泉観光協会の加藤貴之会長より、「被災による風評被害の後、働き手となる雇用確保が難しい中で、世界的なロボットカンパニーより床拭きロボットを頂戴しました。床拭きロボットを上手く活用しながら施設を綺麗に保ち、お客様をお出迎えしたい。」といったお話をいただきました。また、土湯女将会美湯の会の女将にもお集まりいただき、床拭きロボット「ブラーバ」をご使用いただいた感想を伺うと、「モップ掛けをしているけど、床拭きロボットを使ったら清掃後のパッドが真っ黒になった。これまで電話やお客様の対応で掃除の手を止めていたが、ロボットに掃除を任せることで手を止めることなく、他の作業が出来ることがありがたい」等の感想を述べられました。寄贈式終了後には、日帰り温泉施設「御とめ湯り」にて実際に「ブラーバ」が清掃する様子も公開されました。

また、8月1日(木)には、子供達にロボットの利便性や動かすことを伝える体験型の『STEMワークショッププログラム』を福島市の協力のもと福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館で初開催いたしました。福島は、イノベーション・コースト構想に基づき、ロボットの研究・開発拠点となる大規模施設「福島ロボットテストフィールド」が2018年度より順次開所されるなど、ロボット関連企業の進出も相次ぎロボット産業への関心が高い地域でもありますが、昨年、双葉郡葛尾村立葛尾小学校にて開催した『ロボット授業』が好評だったこともあり、『STEMワークショッププログラム』を福島で開催いたしました。ワークショップでは、現場で活躍する社員がボランティア講師となり、小学校低学年を対象に子供向けのプログラミングソフト(Scratch(スクラッチ))を使いながら、ロボットが動く仕組みを解説するとともに、後半には、教育用のルンバ型ロボット「Create 2(クリエイト ツー)」を使って、プログラミングでルンバを実際に動かす体験をしてもらいました。参加した子どもたちからは「ロボットが自分の考えた通りに動いたり、上手く動かないことなど色々経験できて楽しかった。」や「自分の好きなように動かせるから楽しい、もっとやりたい。」といった感想が寄せられました。

アイロボットジャパンは、実用的なロボットの開発により消費者の豊かな生活の後押しを行うとともに、今後も楽しみながらロボットに対する興味を持つきっかけになることを願い、学びの場の環境づくりやロボット授業などの子どもたちの支援と社会貢献及び地域創生の一助となるような取り組みを推進してまいります。

■STEMワークショッププログラムの様子



■寄贈製品に関して

床拭きロボット「ブラーバ ジェット240」



専用のクリーニングパッドを装着すると自動的に最適な清掃モードを選択し、くまなく拭き掃除をします。ジェットスプレーで水を噴きつけ、こびりついた汚れやベタつきをこすり落とします。コンパクトなデザインと正確なナビゲーションシステムにより、家具のすき間や狭いスペースにも入り込み、丁寧に拭き上げます。

■床拭きロボット「ブラーバ 380j」



ウェットモードで最大 20 畳*1、ドライモードでは最大 56 畳*2まで清掃することができるので、リビングや広い部屋を清掃したい方にオススメです。水拭きと、から拭き、2 つの清掃モードで、ホコリや髪の毛はもちろん、普段の掃除では取りきれなかった皮脂汚れや、食べこぼしのあとまで残さずキレイに清掃します。

*1: 実際の住環境を想定し、床の 25%に家具やラグを設置した場合。フローリング上での試験結果(当社調べ)

*2: 実際の住環境を想定し、床の 25%に家具やラグを設置した場合。フローリング上での試験結果(当社調べ) ドライモード、NorthStar キューブ 1 個使用時におけるフローリング上での試験結果(当社調べ)

■床拭きロボット「ブラーバ ジェットm6」



ブラーバシリーズ初となる自動充電 & 自動再開機能を搭載。また、本体にカメラを搭載し、iAdapt®3.0 ビジュアルローカリゼーションによる高度なナビゲーションを実現しました。「Imprint™スマートマッピング」技術が、最大 10 の異なるフロアのマップ(間取り図)を作成し、最適なパターンで効率的に拭き掃除します。さらに、アイロボット独自の新技术「Imprint™リンク」を搭載。「ルンバi7」シリーズと一緒に使用すると、ロボット同士が連携し、ルンバの清掃後に「ブラーバ ジェットm6」が自動で起動。人間が指示を出すことなく掃除機掛けから拭き掃除まで一貫してロボットに任せることができるようになりました。

製品 URL: <https://www.irobot-jp.com/braava/>

アイロボット・コーポレーションについて

アイロボットは世界有数の家庭用ロボットカンパニーであり、家庭内外でより多くの仕事ができるよう人を支援するロボットの設計と製造を行っています。2002年にロボット掃除機ルンバ(Roomba® Vacuuming Robot)を発売し、ロボット掃除機市場を創出して以来、全世界で 2,500 万台以上のロボットの販売実績を誇ります。ロボット掃除機ルンバと床拭きロボットブラーバのシリーズをはじめ、清掃・床拭き・ナビゲーションにおける特許技術と先進的なコンセプトを有し、スマートホーム実現のため、ロボットのエコシステムの構築に取り組んでいます。

iRobot, iRobot ロゴ、アイロボット Braava、ブラーバ、Braava jet、ブラーバ ジェットはアイロボットの登録商標または商標です。